等ニ付審議セリ尚右官公吏ノ醵出ト共ニ總督壹千圓政務總監五百圓ヲ加フルコトニ決定セリ

一、朝鮮ノ最大ノ宗教類似團體ダル天道教新派ニ在リテハ今次事變ニ際シ零細ノ獻納金ヲ蓄積シテ壹千圓ヲ軍ニ獻納シタル外時局ノ重大性ヲ百萬ノ教徒ニ諭ス爲多數ノパンフレットヲ印刷シ配付セリ

其ノ内容

帝國ガ東洋平和ノ爲ニ奮鬪シツツアルコトヲ知ラシメ支那ガ頑迷ノ抗日ヲ事トシ遂ニ危機ニ陷ルベク、朝鮮民族日本帝國ノ赤子トシテ東洋天地ノ歸趨ヲ體得シテ支那膺懲ノ天職ヲ全ウセヨ

ト喝破セルモノナリ

一、鮮内鐵道ニ付輕微ナル列車妨害八件アリシモ軍隊輸送列車ニハ何等支障無ク妨害ノ原因何レモ子供ノ悪戯ニシテ特ニ爲ニセントスルモノニアラズ

89

祕

昭和十二年七月二十二日

北支事變ニ關スル外國新聞論調概要(十)

外務省情報部第三課

(執務參考用ニ付キ取扱注意アリタシ)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（A）支那紙

一、日本側ノ計畫的行動ナリヤ否ハ重要ナラス、要點ハ解決條件ヲ支配シテ居ル日本ノ兵力ニアル。

二、蔣介石ハ此際一應地方的解決ニ委ネ更ニ準備ヲ整ヘ他日ヲ期サントシテ居ルニ非スヤト推測セラル

三、日本ハ此際勢ヒニ乘シテ深入リセハ將來拔キ差シナラヌ破目ニ陷ルヘシ

四、日本ノ目的カ窮極日支ノ提携ニアルヘク、右目的カ「サーベル」ヲ以テ到達シ得サル以上、穩和政策コソ最上ノ途ナルコトヲ悟ルヘキナリ

五、支那モ國家組織ノ統一ヲ余リニ過信スルハ頗ル危險ナリ（以上十九日、上海、「ノース・チヤイナ・デーリー・ニュース」論說）

六、時局收拾ハ日本ノ誠意ト九國條約締約國ノ義務觀念ノ增大ヲアル。（十九日北平河北日報論說）

七、米國ノ曖昧ナル態度ニ鑑ミ余リ希望ヲ懸ケ得ス、同國ニ望ミ得ルノハ中立法案ノ程度タルヘシ（十九日、北平世界日報）

2

ヘ平和的希望ノアル内ハ（一）領土主權ノ完成ヲ侵サレサルコト（二）警察行政組織ハ改變セサルコト（三）中央派遣ノ官吏ハ他ノ要求ニヨリ任意ニ更迭セサルコト、（四）二十九軍駐屯地ニ付テハ何等ノ束縛ヲ受ケサルコトヲ條件トシテ解決ニ努力スヘシ（二十日上海各漢字紙記事）

九、支那ノ回答ハ何等「ルビコン」ヲ渡ル性質ノモノニ非サルニ拘ラス日本ハ武力ニ訴ヘテ支那ノ對日親善ヲ強要セントス、支那ノ六分ノ一ヲ併合セル後更ニ今度ハ北支ノ分離ヲ計ラントス

一〇、外國政府ト雖モ人工的ニ造リ出シタル輿論ノ憤激ニ名ヲ藉リテ爲サレツツアル露骨ナ侵略ニハ眩マサレナイ。（二十日上海、「ノース・チャイナ・デーリー・ニュース」論説）

一一、「蔣介石ノ廬山ニ於ケル訓示ハ世界ニ告ケテ民衆ヲ諭シ、日本ニ一大痛棒ヲ加ヘタモノ（二十一日、南京日報論説）

（B）英國紙

一、日本憲兵ニ依ル天津郵便局ニ於ケル信書檢閲開始ニ對シテ領事團抗議ス（二十日諸新聞記事）

二、内亂ト政治的進歩ナカリシ支那ナレハ局地的解決案モ認メタランモ今日ハ然ラス。支那ハ日本軍部ノ前進政策カ日本ノ擧國一致ノ支持ナキヲ知ル。戰爭ニ訴ヘス双方ノ面子ヲ立ツルコトノ可能ナルヲ信ス。目下進行中ノ日英交渉ニシテ成立セハ日本ハ再ヒ安全ヲ感シテ日英手ヲ携ヘテ平和裡ニ支那ト共ニ廣大ナル市場ノ開拓ニ協力シ得ルニ至ラン（二十日ポスト論説）

三、英ノ主要目的ハ平和政策ニアリ、日支兩國共ニ戰爭ノ擴大ヲ欲セサレハ外交上ノ折衝ニヨリ妥結ニ至ルヘシ（二十日、テレグラフ論説）

四、英外相ハ日支兩國ヲ同列ニ取扱ヘルモ未タ南京ハ挑發的措置ヲ執ラス（二十日ガーディアン論説）

五、平和保持ノ責任ハ日本ニアリ（二十日、ヘラルド論説）



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（C）佛國紙

一、英外務省ハ日本ニ正面ヨリ反對セサルコトニ決セリ、

二、日本カ支那ニ深入リスレハ夫レタケ英トシテハ太平洋自治領ニ對スル脅威カ減少スル

三、英ハ事件ノ結果、日本トノ友好條約交渉及經濟便節トノ話合ヲ中止スヘシ

四、支那カ北支ノ一省又ハ二省ヨリ退却ヲ余儀ナクセラルル場合、佛蘇ハ武力併合不承認ノ原則ヲ明ラカニスル一九三二年一月七日附ノ「ルート」累次ノ米國「ノート」ニ參加ヲ聲明スヘシ、英モコノ場合口先キノミ之ニ賛同スルコトトナラン、（以上二十日、「ウーブル」紙「タブイ」女史論文）

（D）ルーマニア紙（ブカレスト）

一、日本カ從來ヨリ準備シタコトヲ實行ニ移シタニ過キス（田中「メモランダム」ヲ援用）（二十日「モメント」論説）

二、自已ノ勢力擁護ノタメ北平方面ニ於テ防措置ヲ講スルノハ當然ノ權ナリ

5

三、北支方面ニ戰爭カ起ルノハ、日本カ支那兵力ノ侵越ヲ無視スル
ノ態ヲ演スル場合ト、蘇聯カ行動ヲ開始シタル場合ナルヘシ（
二十日「ユニヴーサル」論說）

（E）エジプト紙（アレキサンドリア）

一、計畫的ノモノニ非ス、日本ノ演習ヲ誤解シタルニ基ク、

二、支那カ滿洲國創立以來北支ニ勢力ヲ張ラントスル日本ニ對抗セ
ントスルハ當然ナルモ、日本ニ取ツテモ蘇聯カ支那ニ於テ活躍
シ支那カ危殆ニ陷ルハ坐視シ得サルヘシ、（以上二十日、「ア
ハラム」論說）

三、日本ハ北支カ支那ノ一部ナルコトヲ忘却セルモ、列國將ニ英蘇
ハ日本ヲシテ支那ト單獨ニハ戰ハシメサルヘシ、（「バラーグ」
論說）



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

90

情報委員會七・二四　情報第三號

同盟來電　不發表二十三日佛蘭西新聞論評

(イ)パリ・ソァール紙（ソーエル・ヴァイン氏執筆）

「現地協定が締結され宛平の支那兵も撤退し現地の事態は好轉したが、一般的紛爭の危險が去つたと見るのは尚早だ、滿洲、朝鮮から日本の援軍が到着し、他方支那中央軍の北上は停止されない、然し日本が多大の生命と財的犧牲とを必要とする大仕掛の對支軍事行動を回避せんと欲しつゝある事は明白だ、日本の强硬政策は列强に頗る不利な反響を招き、ワシントン駐劄獨逸大使ハンス・ディクホフ氏は本國政府の中立政策を米國政府に申入れた程だ、日本の冒險政策は何國の支持をも受けぬ、從つて地方的解決は日本の歡迎する所だらうが、南京政府は今度は日本が北支を第二の滿洲の樣に取扱ふことを許すまい」

(ロ)レブブリック紙は（ゼラール氏執筆）

「極東からの報道は四十八時間以來稍好轉した、人口激增、國土狹少にして大陸に進出せざるを得ぬ日本と國民的自覺を取戻しつゝある支那との間には根本的に衝突すべきものが有る、假りに今日日本政府が些細な成功を以て滿足するとしてもそれが日本終局の目的たる支那併呑の一階梯たる事は疑ひない、たゞ目につく事は一方日本が事態を急轉せしめん